Pure Pacific 純パ No.200 Dec.2018
純パの会会報『純パ』第200号　2018年12月1日発行／発行：純パの会

会報『純パ』200号を迎えて

影山　一義

このたび、会報「純パ」は200号目の会報を送り出すことができました。純パの会の会員のみなさま、現在使用している会報発送作業の会場をご提供いただいている「編集室屋上」の林さやかさんおよび管理を担当されている神保町「ビブリオ」の小野祥之さん、また会報の印刷、発送でお世話になっているプリントパック様、ヤマト運輸様、その他これまでに会報に関わってきたすべての方々に御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

そしてこれからもよろしくお願いいたします。

＊

さて、今から8年前、2010年7月発行の会報150号の時の巻頭も実は私が書いているのですが（会報『純パ』150号を迎えて」……なんか今回のタイトルと似ているなぁ）、200号に迎えるにあたって、150号の時に書いていたことを改めて振り返ってみると、ようやく端緒のついたもの、あるいは、未だ遠い道のりということが結構あるなあと、我ながら青臭いことを書いたものよと、恥ずかしくさえ思えたりもするのですが、一方で、目先のことばかりに囚われることよりも、やはり、せめて理想を掲げて進むことということについては、これからも大事にしていきたいと改めて思います。

そして150号の時にはあまり考えていなかったことだったのですが、会報に限らず、純パの会としての情報発信能力を、今後もさらに高めていきたいと思っています。ホームページ、ツイッターやフェイスブックなどといったSNSによるネットでの発信と、会報など紙媒体での発信との住み分けあるいは融合などといったことを積極的に進めてゆければと思います。

ところで、この記事ではこんなことも書いていました。

「……今後も現在の発行スケジュールが維持できた場合、今から8年後、2018年11月発行の号が通算200号となる予定……」。

本来のスケジュールですと、今回の200号は先週（11月24日）に発行する予定だったのを1週後ろ倒ししたのですが、それでも年6回の発行スケジュールをおよそ8年間維持して、正直言ってよく1号も穴をあける（年6号の発行が年5号になること）ことがなかったと思っています。その点だけが、おそらく150号に書いた中では唯一実現できたことなのではないかと、自分で自分を「よくできました」と褒めてあげたいところですが、一方で、「200号は記念号にする」とぶち上げて、先送りしてしまったことは、反省しなければなりません。

そして、気がつけば、私自身が会報作りに携わってから足掛け20年以上、大ざっぱに言って、会の歴史のうちの十近く携わってきたのですが、仮に、今後も現在の年6回の発行スケジュールが維持できた場合に、会報が300号に到達するのは約17年後の2035年ごろ、半分の250号でもおよそ8年半後の2026年ごろと、もう、細かい計算ができなくなってしまっているぐらいなのですが、その頃に、会報の編集担当者が代替わりできているようならば、純パの会はまだまだ大丈夫（であればいいな）とも、思っています。

なんか後ろ向きなことを書いたような気もしますが、正直、この先いつまで会報づくりに関わることができるのかと思いつつ、今後も続けられるうちは、事務局や会員のみなさんとともに、会報を届けてゆければと思っています。そして、これからも会報一部一部の積み重ねで日本プロ野球史における、純パの会の、そしてパ・リーグファンの歴史の一場面を担えればと考えています。